

# 園長だより

前号にて音楽について書き綴るとお知らせしました。

まずは保育園の音楽的教育を語る前に私の音楽における体験からお伝えします。現在に通じる音楽への考えを理解する一助になると思います。

私の幼少年時代は音楽を語るなどとはいいささか程遠い時代を過ごしていました。

「音楽を音苦」と置き換えていいような幼少年時代、小学校から中学校の通知表をみかえし、音楽の評定に限っては、すべて最低の評定をいただいていたわけです。

保護者の皆様はうーんと首をひねり、こんな人が園長とは失念を抱くに違いありません。



## 「トランペット」

音楽、嫌いなわけではありません。小学5年生の時、運動会、鼓笛隊でトランペットを吹き行進する上級生に憧れ、音楽の先生に「トランペットが吹きたい」と直談判した記憶があります。

当然、先生は即座に却下、「リコーダー（縦笛）の試験も受かってないものにやらせるわけにはいかない」と言われました。

そこで後ずさりせず、必死になり縦笛の練習をしたのですが、すべての曲をクリアすることはできず、夢は、はかないものになりました。

## 「時が過ぎピアノを習う」



本格的に音楽に向き合うようになったのは20歳になった頃、幼稚園教諭を志した時代です。当然、ピアノが必須、当時の幼稚園教諭はハイレベルな伴奏が要求されていました。

当時、住んでいた我家の隣がピアノ教室であったことから、ピアノのご教授をお願いした日から2年余り毎日、通い続けました。レッスンは週1回、他6日は自主練習、レッスンの生徒が帰る。20時ごろからピアノに向かう毎日でした。

内容はというと幼児がはじめるレッスンから楽譜も読めずにいた私はメロディーに歌詞をつけなくて、ドレミの音名で正しく歌うことからはじめ、音程やリズムを正しく聞き、歌う練習は楽譜を読む力や正しい音楽表現の力を養うよう言われていました。

ピアノについては鍵盤をふれる指はガチガチ、ドレミすら指が動かないという状態からはじめたわけです。

過酷な練習と思いきや日々、少しずつ、上達する実感が心地よく感じられたものです。

日々の積み上げが成果としてつながり、なんとか養成校のピアノの単位を落とさず、卒業し保育者への道を歩きはじめました。

20歳過ぎ、音楽を一からはじめ、小さい子どもが出会うプロセスで取り組むことが後の保育者になったときの音楽（表現）への思いに大きな影響を与えることになります。

## 「これでいいのか音楽教育」

幼稚園の教諭になった2年目、私は5歳児の担任になり、以後数年5歳児の担任をすることになりました。当時は、保育内容を見直し、子ども主体の保育を目指している時期であった。その反面、昔ながらの画一主義の保育も残っていた。子ども達が満足に遊ぶ時間が取れず、その日の日課が組まれ、折り紙制作をした後に体操、そして次の活動に取り組む、子どもたちが自分たちの意思で遊びや活動を進める環境には程遠いと感じた記憶があります。

当時、鼓笛隊が存在し4歳児からのピアノの指導、5歳児から鼓笛隊の編成、毎日が慌ただしく、厳しい指導をしたことも事実、音楽嫌いな子どもたちを作っているのではないかと自省の念にかられる日々でした。

私は数年、指揮者、大太鼓、小太鼓等を編成するチームを指導していたこともあり、幼児期の音楽教育の再考を強く思うようになり、指導の是非や内容を見直していくことになりました。

結果、鼓笛隊は廃止、ピアノでの過剰な歌唱指導や年齢に相応しない高度な内容は見直され、年齢に即した内容に移行していきました。

全国の幼稚園、保育園で鼓笛隊、マーチング、合奏など多くの園が取り入れています。他園の保育内容を否定するつもりは毛頭ありません。音楽に特化し、園の方針と胸を張りやっているのでしたら継続して下さいとお伝えしたい。

ただ、行き過ぎた活動は見直して行くことが必要と思っています。

## 【ここでひとやすみ】

保育所保育指針では表現の領域にて

【音楽に親しみ歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりするなど楽しさを味わう。】

と内容で示されています。具体的内容は各園で計画するわけですが常に子ども達の発達に即しているものを立案することが望ましいとされています。

※保育所保育指針とは厚生労働省が保育内容に関する事項や運営に関する事項を定めたもの。

後の機会に小学1年生の音楽の学習内容にも触れ、幼児期の音楽についても考えてみます。



昔を回想し自身の音楽とのかかわりを考えてみたわけです。経験から幼児期の音楽教育の在り方、大切にしたいことは

- ・音楽が好きになること
- ・発達に応じたプロセスを踏んでいくこと
- ・生活の中で音楽が無理なく心地よく感じられること
- ・心地よさの中から心の育ちをはぐくむこと

次回はおおぞら保育園での音楽教育 近年、大切に考えてきたこと、実践してきたこと、これからも大切にしていきたいことを書き綴ります。

## 週末の運動会

子どもたちの取り組んでいる姿を思い浮かべるとわくわくします。一緒に楽しみましょう。お天気が心配ですが晴れることを願って

(園長 廣部 信隆) 2

